

ほ ど 教育センター通信

火床の火の心を紡ぐ

第5号（通算第36号）
平成28年12月6日
三条市小中一貫教育推進課
教育センター 発行



研究授業の「参観」

教育センター指導主事 小杉 洋一

「岳夫さんはノートに〇〇と一度書いたけど、しばらくして消したんです。」

「先生が『和也さんと同じ考えの人はいますか』と聞いた時、貴子さんは手を挙げたけど、実は和也さんとは違う考えがノートに書かれていたんです。」（岳夫、和也、貴子は仮名。）

オーダーメイド訪問で市内A小学校に伺い、研究授業と協議会に参加しました。協議会は小グループで行われました。冒頭の言葉は、グループ協議でA小学校の先生方が発したものです。授業中に見とった子どもの事実を根拠として、協議会に対する考えを述べていました。私は、協議会の質の高さに感動しました。

校内研修における授業研究は、研究主題設定、指導案作成、指導案検討、研究授業、協議会、まとめ、という段階で行われるのが一般的です。それぞれの段階で、教員の協働性を高める工夫が各校で行われています。最近では協議会の工夫が目立ちます。付箋を用いたKJ法、ワールドカフェ形式、円形記録用紙の使用などです。また、ファシリテーションの考え方も大切にされています。

さて、協議会は様々な工夫が行われていますが、研究授業の「参観」は、どのように行われているのでしょうか。

A小学校では、研究授業を参観していた全ての先生が、用箋ばさみ（クリップボード）を持ち、手を休めることなく授業記録をとっていました。

「うちの先生方は、本当に一生懸命、校内研修に取り組んでいるんですよ。」

協議会後の校長室。私が感動を伝えると、校長先生は笑顔で答えてくれました。

多くのオーダーをいただいています「オーダーメイド訪問」

授業支援訪問をリニューアルし、今年度より各学校からの様々なご要望に応える「オーダーメイド訪問」を行って参りました。11月現在で、小学校17校、中学校5校より要請を受け、延べ46回の訪問を行わせていただいております。具体的な内容としては、小中一貫教育についての講義、保護者説明会、出前授業、指導案検討、研究協議会、特別支援教育研修などです。各校におかれましては、研究のまとめや来年度に向けた研究計画立案等ご多用の時期かと思っておりますが、今後とも様々なオーダーにお応えしていきたくと考えております。よろしくお願いいたします。

要請から訪問までの流れ

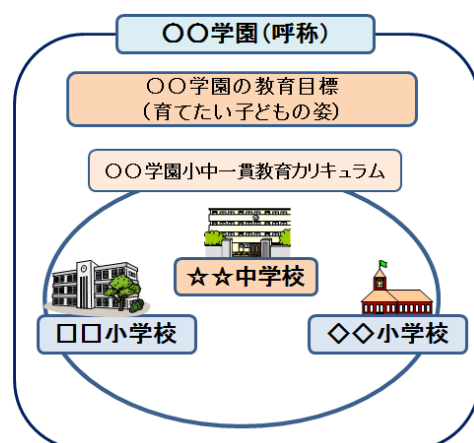
- ① 学校は、中学校区担当指導主事に大まかな内容、希望日等を伝える。
- ② 実施の可否、実施日、訪問を担当する指導主事の決定。
- ③ 学校は、訪問を担当する指導主事に内容の詳細を伝える。
- ④ 訪問。 ※中学校区単位の訪問も可能です。

「第2回小中一貫教育推進協議会」学園呼称の協議が進んでいます。

小学校と中学校が9年間の一貫した教育を行っていることを広く周知し、中学校区の各学校の一体感をさらに醸成するため、今年度の取組の一つとして、それぞれの中学校区にふさわしい学園呼称を考えていただいております。地域の皆様、保護者の皆様、児童生徒、教職員から呼称を公募したり、地域の会合やPTAで話し合ったりして、候補案を集約していただきました。その候補案をもとに10月から各中学校区で開催されている「第2回小中一貫教育推進協議会」で学園呼称についての熱心な協議がなされています。

その結果、いくつかの中学校区では最終決定をしていただきました。また、その他の中学校区では最終候補案を2~4つに絞り込んでいます。最終的には、すべての中学校区が決定した学園呼称を、3月の定例教育委員会で承認する予定です。

各中学校区の推進協議会に参加させていただきましたが、地域の子どもたちに寄せる地域・保護者の皆様の熱い思いや願いを改めて感じ取ることができました。感謝申し上げます。



本成寺中学校区推進協議会の様子



大島中学校区推進協議会の様子

児童生徒の自殺予防に関する普及啓発協議会の報告

小中一貫教育推進課 小田 貴樹

平成28年7月25日に新潟市で行われた北陸ブロックの協議会の内容について報告します。

厚生労働省自殺対策推進室の説明から、小学生、中学生、高校生の自殺の推移についての説明と東京家政大学相馬教授より「教師が知っておきたい子どもの自殺予防の基礎知識」について講演が行われました。児童生徒の自殺予防について参考にしていただければと思います。

1. 現状と課題

日本は世界有数の自殺大国であり、その対策として平成18年に自殺対策基本法が成立・施行され、自殺対策が進み、全体の自殺者総数は減少してきている中、下の表に示した数値から見られるように、児童生徒の自殺は減少していない実態に課題があります。学校における自殺予防教育は、多くの教師が必要性を認めながら、実行すると難しく直接的に自殺を扱った予防教育の指導内容が示されていないことや、先行事例が少ない状況であることも説明がありました。

日本の自殺者数、児童・生徒数、児童・生徒の自殺死亡率の推移（平成19年～27年）

年 度	自殺者数（男女計）※1				児童・生徒の死亡率※2		
	自殺者総数	小学生	中学生	高校生	小学生	中学生	高校生
H19	33093	8	51	215	0.11	1.41	6.31
H20	32249	9	74	225	0.13	2.06	6.68
H21	32845	1	79	226	0.01	2.19	6.75
H22	31690	7	76	204	0.10	2.14	6.06
H23	30651	13	71	269	0.19	1.99	8.03
H24	27858	8	78	250	0.12	2.20	7.45
H25	27283	8	98	214	0.12	2.77	6.45
H26	25427	18	99	213	0.27	2.83	6.39
H27	24025	6	102	241	0.09	2.94	7.26

【資料】：警察庁「自殺統計」、文部科学省「学校基本調査」より厚生労働省自殺対策推進室より

※1 自殺者数は、「年」（1月～12月）の集計

※2 自殺死亡率に使用した学生数は「年度」（4月～翌3月）による集計

2. 自殺の心理

自殺はある日突然、何の前触れもなく起こるというのではなく、長い時間かかって徐々に危険な心理状態に陥っていくのが一般的です。自殺にまで追いつめられる子どもの心理の特徴として、自殺未遂、心の病、安心できない家庭、環境、独特の性格傾向、喪失体験、孤立感、安全や健康を守れない傾向などがあげられます。

3. 子どもに伝えておくべき自殺予防の知識

(1) ひどく落ち込んだ時には相談することを繰り返し伝える。

(2) 友達に「死にたい」と打ち明けられたら、信頼できる大人につなぐ。

友達から自殺願望を打ち明けられた時、どのように対応したらよいかかわからず、最終的な悲劇が起きる可能性があるからです。

(3) 自殺予防のための関係機関について知っておくことにより素早い連携を行う。

4. 教師としてできること、できないこと

教師として自殺を思いつめるまでに悩んだ生徒をあたたく見守り、他の生徒との関係を調節してあげることが役目であり、適切な治療を受けられるように働きかけることができます。教師が親の代わりに精神科医の代わりをすることはできないという説明がありました。

5. その他

各学校に文部科学省から配付された資料（文科省 HP から DL 可）をぜひ活用ください。

○「教師が知っておきたい子どもの自殺予防」（平成21年3月送付）

○「子どもの自殺が起きたときの緊急対応の手引き」（平成22年3月送付）

○「子供に伝えたい自殺予防」学校における自殺予防教育導入の手引き（平成26年11月送付）

「三条学講座」受講、ありがとうございました (Part①)

11月5日(土)の「包丁づくり実技講座」をもちまして今年度の三条学講座が終了しました。直接「三条のひと・もの・こと」に触れることで得られる感動は格別です。三条学講座を通して「三条のよさ・すごさ」に触れ、学ばれたことの一部を児童・生徒みなさんの指導に生かしていただければと思います。今後成果と課題を整理し、より魅力ある講座にしていきます。

H28年度「三条学講座」受講者数(人) ※()内はH27年度

回	講座名(略称)	小学校	中学校	合計
1	郷土の偉人 諸橋轍次博士	5(13)	2(5)	7(18)
2	包丁研ぎ講座	42(38)	12(19)	54(57)
3	和釘づくり講座	16(10)	2(3)	18(13)
4	三条鍛冶の歴史(ルーツ)	7(17)	2(4)	9(21)
5	三条刃物について	10(9)	1(3)	11(12)
6	秋の大崎山をたずねて	6(4)	1(2)	7(6)
7	包丁づくり実技講座	*12(6)	0(1)	12(7)
合計		98(97)	20(37)	118(134)

* : 文部科学省生涯学習政策局研修生1名

第1回 郷土の偉人 諸橋轍次博士

6/9(木) 於：諸橋轍次記念館

「DVD視聴→館内見学&説明→生家見学」と、諸橋博士の業績・人となりに触れ、諸橋轍次記念館内の展示物を見学しました。館長の嘉代さん(今年度就任)、学芸員の佐藤さんの分かりやすい説明に受講者は終始聴き入っ

- ◆座学よりも生家や展示物を見ながらの方が頭に入ります。保内小出身なので、小柳氏についても調べてみたいと思います...
- ◆子どもが自分の郷土を誇りに思うためには、郷土の偉人について、教師がまず学ぶことが大切かと思います。知らないことが多くもっとよく見てみたいと思いました...
- ◆三条のことをよく知ってもらうために、新しく三条市にやってこられた教員にはとてもよい内容で、「諸橋博士」のことがより身近に感じることでできる内容でした...
- ◆BSN「新潟偉人伝」にも放送され、県内全小学校にDVDが配付される予定になっている諸橋博士。三条市に着任した全ての職員に受講してもらうとよいと思いました...



第2回 包丁研ぎ講座(実習)

7/28(木)・29(金) 於：三条鍛冶道場

切れ味の悪くなった包丁を持参し、包丁の正しい研ぎ方を身に付けました。荒砥石、中砥石、仕上げ砥石の順で研いでいくと、何と新品同様切れ味抜群の包丁に。その研ぎ方にはやはり先人の「コツ」がありました。

- ◆講義で教わったことは生活とつながり、「なるほど!」と嬉しい学習でした。実演してくださる技を見ていると、自分もすぐになれるような気分になるから不思議です。現実には甘くなかった...。資源の乏しいことを自覚して、謙虚に技を磨いてこられた先人の工夫、継承する人々に感謝です...
- ◆捨てようと思っていた錆だらけの包丁が2本共ピカピカになりました。夢中になって時間の経つのも忘れてしまいました。包丁が生き返ったようで、今日の夕食の支度をするのが楽しみです...
- ◆何年も使った包丁がみるみる蘇り感動しました。メンテナンスをしっかり行い、物を大切にしていける必要を改めて感じました...



第3回 和釘づくり講座(実習)

8/4(木) 於：三条鍛冶道場

伊勢神宮の式年遷宮に用いられている三条の和釘。鉄を赤く熱する、叩いて伸ばすという日常生活にはない鍛冶体験をしてその和釘をつくり、ものづくりの楽しさを受講者全員で味わいました。

- ◆初めは火が怖くうまくできませんでしたが、段々と慣れ、和釘をまっすぐに調整することや金鋸を振り下ろす力加減の難しさ、オリジナルの1本をつくる楽しさを実感することができました...
- ◆素人でもちょっと体験して満足できること、その中に極めて興味深い世界があり、これでよしといえるものがないことに驚きました。次の式年遷宮が楽しみになりました...
- ◆三条の文化に触れることができ貴重な体験でした。実際体験することで作業の大変さや和釘のよさを知ることができました。子どもたちにも是非体験を通して三条のよさに触れてもらいたいです。三条の郷土文化を学校職員に伝えることで、子どもたちへも郷土三条の魅力を発信することができる大変有意義な内容だと思います。次年度も参加して鍛冶の一端を楽しませていただきます...

